

# 令和5年度自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園 せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園

## 1、本園の教育目標

園児一人一人の存在そのものを尊重し、個性を大切にする教育により自己肯定感を育てると共に、人と関わる良さ、自然と関わる良さを十分に経験し、意欲的に力強く生きる力を育てる。

## 本年度、重点的に取り組む目標・計画

これまでの自己点検・評価の結果や年度末の保護者アンケートも踏まえて下記の点について重点的に取り組む。

1. 繋がり(子ども・保育者・保護者・保育園)を大切にする
  - ・その子らしく・その人らしくいることができるように。
  - 子どもの育ちを踏まえて保護者の方に伝える工夫をしていく。
  - ・家庭を支えていくための関わり方や保護者同士をつなぐ工夫を心がける。
  - ・2歳～6歳の育ちの繋がり・連続性を探る。
  - ・若手保育者の育成、保護者同士のつながりを大切に。
  
2. 子どもをまん中に新たな挑戦（環境・絵画・教育課程+α）
  - ・ひじり幼稚園が100周年という節目の年。新たなチャレンジをしていきたい。
  - 今ある環境を見直し、子どもの遊びが深まるような環境の作り方や、仕事の効率化が図れるようにシステムや環境の在り方を見直す。
  - ・作成中の教育課程の見直しを継続。

## 2: 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 子どもの育ちを踏まえて保護者の方に伝える工夫をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが5類に分類され、コロナ期間中希薄になっていた関係性を取り戻すためにも、改めて関係性の構築に力を入れていく。子ども同士はもちろん、保護者同士の関係性を繋ぎ、子育ての充実につなげたい。</li> <li>・若手保育者を含む保育者同士の同僚性を高めるための語り合いや研修に取り組みたい。</li> </ul>
2. 子どもをまん中に、新たな挑戦 ひじり幼稚園100周年を迎えるにあたり、新たな挑戦に取り組む。 ・作成中の教育課程の再編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊びや興味が深まる環境の工夫</li> <li>・作成途中の教育課程を継続して取り組みたい</li> <li>・その他、自分たちが挑戦したい事に取り組む</li> </ul>

### 3: 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・コロナ期間中希薄になっていた関係性を取り戻すために、子ども同士、保護者同士の関係性の構築に力を入れた。

子ども同士の関係性は、各クラスの活動の中で、友達と共にする事で、自分一人ではできない力を感じ、友達に励まされることで、やる気が出るなどの、様々な場面で友達の影響を受け育つ姿が見られた。また、異年齢の兄弟学級の取り組みにも力を入れた。散歩やお弁当日に一緒に活動したり、運動会の後に自分たちの演技を兄弟学級で体験したり、共に活動をする機会を増やしたことで、絆が深まった。日常の遊びの時間に自由に行きし、年少児は憧れと尊敬の気持ちを抱き、年中長児は思いやりの気持ちを持ってお世話をし遊びを教えてあげる姿が多々見られた。

保護者には、ボランティアの呼びかけを何度かしたところ、参加希望者も多く、楽しそうに活動しているところをInstagramでアップされたことがまた、他の保護者の参加意欲につながり、保護者同士協力し合う姿がよく見られた。地域の未就園の子育て家庭も園庭解放等によって繋がる機会を作ることができた。今まで、コロナによって家から出られなかった家庭は子育て情報をSNSで取り込んでいたが、実際に同年齢の家庭と触れ合うことで、我が子を客観的に見る機会にもなった。

・年齢の育ちの連続性を見通した教育課程の作成を継続しているが、丁寧にその年齢の育ちを解釈していく作業が果てしなく多く、教育課程の完成には至っていない。日本幼児教育実践学会にて、そのことを発表し、高評をいただいた。また、若手保育者を含む保育者同士の同僚性を高めるための取り組みをポスター発表した。また、子ども理解のための保育者の語り合いが注目され、保育雑誌や研究に取り上げられた。

・ひじり100周年の事業を通し、各園の職員が協力して100年誌を作成し、式典を開催したことは、各園の職員の絆を深め、新たなステージに進むきっかけとなった。現在ひじりフィロソフィーブックを各園の協力のもと作成中である。

また、本年度も、1年間を通して子ども理解を中心とした園内研修や支援児のカンファレンスに取り組み、個々の保育者が子どもの思いを理解することから、環境の構成、教材の準備、保育者の関わり等を考えていくことができた。

今後も、子どもの育ちから始まる保育計画を立て、人生の基礎を培う幼児教育の重要性を常に意識して教育の質の向上に努めていきたい。

### 4、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1. 0から6歳の育ちの繋がり (教育課程編成)	乳児担当保育者と幼児担当保育者の合同研修をするなどして、0歳から6歳の育ちの繋がりを意識し、育ちの先をイメージしながら子どもに関わることができるようにする。 作成中の教育課程を継続して作成に取り組む。
2. 保護者とのつながり	様々な方法で、保護者の意見を聞き、子供の育ちを真ん中に協力できるような体制を整える。
3. 子どもも大人もまん中にした共主体の保育	保育者が主体的に保育実践できるように、対話的に計画を立てる。子どもも自分たちの園遊びや生活が主体的に活動できるように対話的に進めていく

## 5、学校関係者の評価

- ・ 関係者評価委員会を開催し、年度末の保護者アンケート結果を元に、話し合いがなされた。
- ・ アンケートでは、「1. せんりひじり幼稚園の教育について・・・」の設問で「とてもよかった」・「よかった」の合計が97%という結果になったことを受けて、保護者からの保育に関する理解が深まった理由について話し合いがなされた。ICTシステムを使って小まめに子どもの様子の配信や、ポートフォリオ、園だより、ホームページ、インスタグラム等様々な方法で発信してきたことにより、保育内容や教育方針の理解が深まったのではないかとということと、保護者が園の日常に参加出来る機会があり、実際に子どもの様子を見ることもできたからという意見も見られた。
- ・ 畑や実のなる木も多く、育てて収穫して食べる様子がインスタに上げられていて、家庭ではなかなかできない四季折々の経験を豊かにさせてもらっていることが嬉しいという意見が多く見られた。環境を最大限に活かして生活に取り入れようとする先生の努力が評価されていた。
- ・ コロナ感染防止がきっかけとなり、様々な行事のありかたを工夫したことが、子どもの豊かな育ちに繋がり、保護者からの信頼を得ることができた。
- ・ PTA 活動は作業中に保護者同士の交流があり、仕事の簡素化されていて参加しやすかったという意見が見られた。活動中も悩み相談が出来、絆が深まって良かったという意見も見られ、PTA 活動がやりやすくなっているのを感じる。
- ・ 預かり保育の利用希望者が増加し新2号の利用枠も増員したが、レギュラークラスは定員いっぱいの状況は続いている。家族数を増やし5家族にしたため、子どもたちも安定して過ごすことができている。異年齢の関わりからくる育ちが顕著で、年長の思いやりの心やリーダーシップ、年少の遊びの深まりや生活での見通す力などが育っている。預かり保育担当者の会議を定期的で開催することで、育ちの共有や、関わり方の共有ができ、保育がさらに充実し、子ども達が楽しく過ごしている様子が伝わってきたとの意見が出た。

## 7、財務状況

公認会計士による年間4回の監査において、園児募集が順調であり、耐震化に伴う大規模改修、建て替え工事のための借入金も順調に返済が進む等、財務状況は良好であるとの指摘を受けている。